

令和6年4月17日

中国地域の経済動向

(令和6年2月の指標を中心に)

～持ち直しの動きに足踏み感がみられる～

中国地域の経済は、生産は横ばい傾向、個人消費は持ち直しの動きに足踏み感がみられる、雇用は有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前月比で減少など、全体として、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。

※当局ホームページ (<https://www.chugoku.meti.go.jp>) にも同様の資料を掲載しております。

■項目別の動向

1. 生産動向・・・横ばい傾向

別添 中国地域鉱工業生産動向参照

2. 個人消費・・・持ち直しの動きに足踏み感がみられる

別添 中国地域百貨店・スーパー販売動向参照

3. 雇用・・・有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前月比で減少

4. 景況感・・・現状は前月に比べ上昇、先行きは低下

5. 貿易・・・輸出、輸入ともに前年同月比で増加

6. 建設動向・・・公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少

7. 企業倒産・・・件数、負債総額とも前年同月比で増加

8. 設備投資・・・2023年度実績は前年度を上回る見込み

※各項目の詳細については、次頁以降を参照してください。
※基調における下線は、前回からの変更箇所です。

(本発表資料のお問合せ先)

総務企画部企画調査課長 腰本 和輝

電話:082-224-5633

メール:bzi-chugoku-chosa@meti.go.jp

1. 生産動向 ～横ばい傾向～

(中国地域鉱工業生産動向 2024年2月 速報)

2024年2月の鉱工業生産指数は104.5、前月比3.3%の上昇となった(2020年=100、季節調整済)。出荷は上昇、在庫は上昇、在庫率は低下となった。

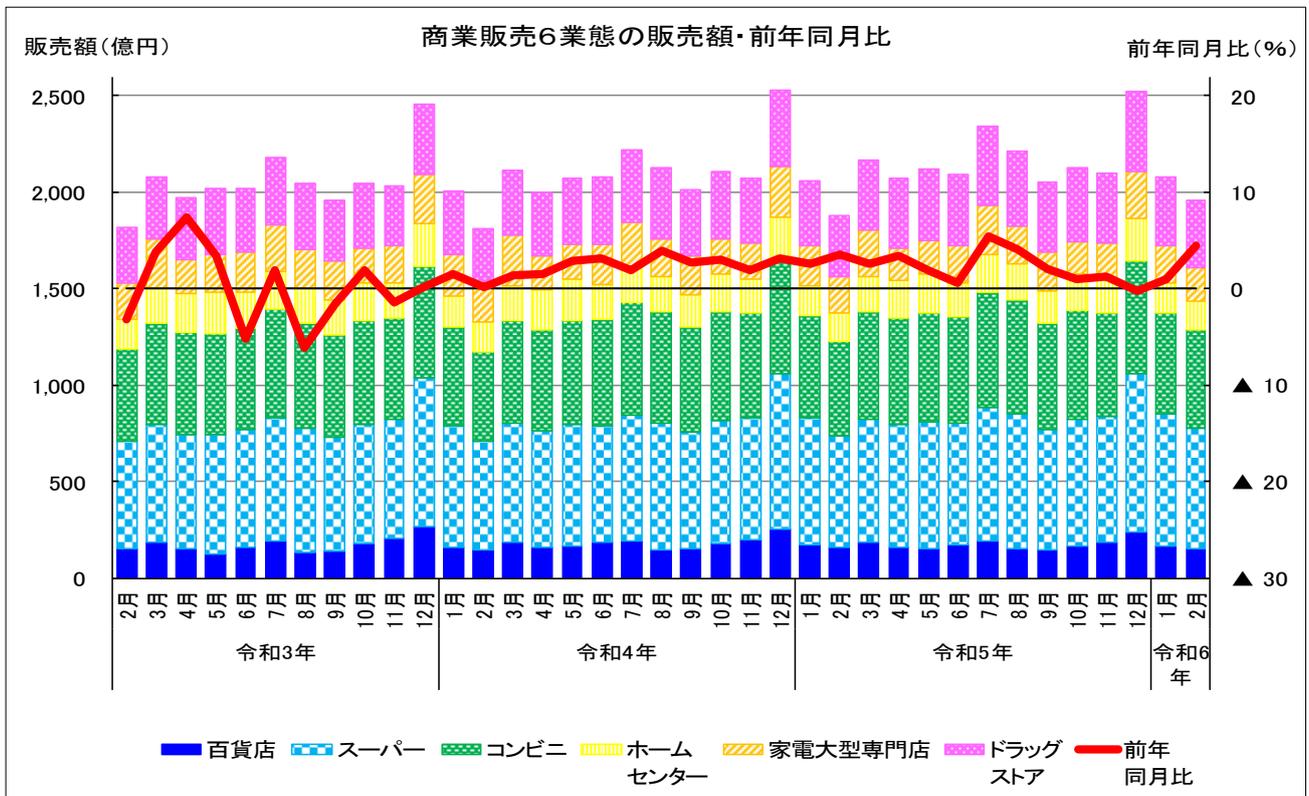
2. 個人消費 ～持ち直しの動きに足踏み感がみられる～

2月の商業6業態の販売額は1,960億円で、前年同月比4.5%と2か月連続で前年を上回った。

2月の乗用車新車登録・届出数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車全てが前年同月を下回り、合計では前年同月比▲22.2%と2か月連続で前年を下回った。また、2月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は前年同月比2.4%の上昇となった。

(1)商業6業態(2月)

		(百万円)			(全店舗、%)
(6業態における構成比)		販売額	前年同月比		(前月の前年同月比)
6業態		196,024	4.5	2か月連続 プラス	(1.0)
百貨店・スーパー		77,562	4.9	24か月連続 プラス	(2.1)
百貨店	(7.9%)	15,428	▲ 3.2	6か月連続 マイナス	(▲ 3.4)
スーパー	(31.7%)	62,134	7.2	20か月連続 プラス	(3.6)
コンビニエンスストア		50,948	4.2	2か月連続 プラス	(0.0)
ホームセンター		14,924	0.3	3か月ぶり プラス	(▲ 2.0)
家電大型専門店		17,899	▲ 3.7	6か月連続 マイナス	(▲ 8.1)
ドラッグストア		34,691	10.9	26か月連続 プラス	(6.9)



- ・百貨店の販売額は154億円で、前年同月比▲3.2%と6か月連続で前年を下回った。
- ・スーパーの販売額は621億円で、前年同月比7.2%と20か月連続で前年を上回った。
- ・コンビニエンスストアの販売額は509億円で、前年同月比4.2%と2か月連続で前年を上回った。
- ・ホームセンターの販売額は149億円で、前年同月比0.3%と3か月ぶりに前年を上回った。
- ・家電大型専門店の販売額は179億円で、前年同月比▲3.7%と6か月連続で前年を下回った。
- ・ドラッグストアの販売額は347億円で、前年同月比10.9%と26か月連続で前年を上回った。

(単位:百万円、%)

	百貨店			スーパー			コンビニエンスストア		
	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数
令和3年	206,944	0.4	14	748,101	▲ 0.7	325	636,344	3.0	3,067
令和4年	213,575	3.2	13	763,978	2.1	328	651,000	2.6	3,065
令和5年	211,271	▲ 1.1	13	793,196	3.8	328	665,865	2.3	3,066
令和5年2月	15,940	10.1	13	57,977	2.8	329	48,900	4.7	3,070
3月	18,778	▲ 0.3	13	63,482	3.1	329	55,844	4.9	3,066
4月	16,217	1.2	13	63,576	5.5	329	54,832	4.3	3,069
5月	15,676	▲ 6.5	13	65,687	4.0	329	56,362	4.5	3,066
6月	17,528	▲ 5.8	13	62,939	3.5	329	55,013	0.9	3,065
7月	19,613	0.9	13	69,211	6.4	329	59,187	1.9	3,068
8月	15,318	5.3	13	69,531	5.9	329	59,690	3.5	3,071
9月	14,996	▲ 2.2	13	62,347	3.1	328	55,055	1.7	3,071
10月	16,841	▲ 6.8	13	65,900	3.1	327	56,389	0.6	3,071
11月	18,915	▲ 5.8	13	64,686	2.9	327	53,689	▲ 1.1	3,068
12月	23,965	▲ 4.7	13	82,080	1.6	328	58,103	▲ 0.8	3,066
r 令和6年1月	16,885	▲ 3.4	13	68,123	3.6	328	52,813	0.0	3,061
p 2月	15,428	▲ 3.2	12	62,134	7.2	327	50,948	4.2	3,053

	ホームセンター			家電大型専門店			ドラッグストア			商業6業態 計	
	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比	店舗数	販売額	前年(同月)比
令和3年	226,860	▲ 2.1	402	250,866	▲ 3.6	177	392,184	0.5	898	2,461,299	0.1
令和4年	224,042	▲ 1.2	403	247,359	▲ 1.4	181	415,822	6.0	971	2,515,776	2.3
令和5年	219,575	▲ 2.0	403	241,928	▲ 2.2	177	442,477	6.4	1,015	2,574,312	2.3
令和5年2月	14,874	▲ 1.7	402	18,592	0.7	181	31,270	4.9	972	187,553	3.6
3月	18,111	▲ 0.7	401	24,134	▲ 5.9	181	36,137	7.8	981	216,486	2.6
4月	20,019	▲ 3.2	401	16,617	▲ 3.3	180	35,898	7.2	984	207,159	3.5
5月	19,802	▲ 5.1	401	17,569	▲ 3.5	180	36,642	5.6	988	211,739	2.0
6月	17,804	▲ 4.0	401	18,998	▲ 8.6	180	36,887	6.6	992	209,169	0.6
7月	19,699	4.6	402	25,717	10.8	180	40,771	8.9	997	234,198	5.4
8月	18,284	▲ 1.6	402	19,622	1.8	180	39,045	5.4	1,000	221,490	4.1
9月	16,574	▲ 2.9	401	19,908	▲ 1.1	180	36,474	7.2	1,000	205,355	2.1
10月	18,764	▲ 3.8	401	16,545	▲ 8.2	179	38,238	9.3	1,004	212,677	1.0
11月	17,903	1.7	402	18,666	▲ 0.6	178	36,148	7.1	1,011	210,006	1.3
12月	22,340	▲ 2.9	403	24,505	▲ 6.0	177	41,528	4.7	1,015	252,521	▲ 0.3
r 令和6年1月	15,093	▲ 2.0	402	19,360	▲ 8.1	176	35,731	6.9	1,015	208,005	1.0
p 2月	14,924	0.3	402	17,899	▲ 3.7	176	34,691	10.9	1,018	196,024	4.5

注1:pは速報値、rは確報値。ただし、令和5年分は年間補正值。

注2:百貨店、スーパー及び商業6業態の販売額は、単位未満を四捨五入しているため、内数の計と合計が一致しない場合がある。

注3:表中の数値は全店ベースの数値。

注4:令和3年3月分から調査対象事業所の見直しを行ったため、コンビニエンスストアについては令和3年2月分以前の月間販売額などとの間に不連続が生じている。したがって、コンビニエンスストアの令和3年2月分以前の月間販売額などにリンク係数を乗じたものが令和3年3月分以降と接続する。

参考：広島市の気温

対平年+ 2.2 °C 対前年+ 1.5 °C

★★令和6年2月の動き（各店舗の声から）★★

【百貨店】

天候が不安定で春物衣料、ラグジュアリーブランドのバッグ、靴といった身の回り品が振るわなかった。また、飲食料品は物価高による節約志向の高まりもあり低調だったが、バレンタインは好調だった。一方、美術品、高級腕時計といった高額品、化粧品が好調だった。

【スーパー】

うるう年の影響があるほか、飲食料品は、相場高の玉ねぎといった土物類、価格が上昇している菓子など加工食品が増加した。また、曜日まわりが良かった節分は恵方巻が好調だった。そのほか、外出需要増加によりキャリアケースといった身の回り品が好調だった。

【コンビニエンスストア】

人流回復により客数が増加したほか、販売促進効果により、パン、揚げ物、デザート、菓子が好調だった。また、気温高により飲料、アイスが好調だった。

【ホームセンター】

うるう年の影響があるほか、価格上昇が影響して紙製品、洗剤、台所消耗品、ペット用品、自転車が増加した。一方、気温高により暖房器具、冬物寝具、灯油が低調だった。

【家電大型専門店】

買い替え需要が一段落したパソコン、需要が前倒しとなったスマートフォンが引き続き低調だった。また、気温高によりエアコン、暖房器具が低調だった。

【ドラッグストア】

新店・改装効果などにより食品が好調だったほか、インフルエンザ流行により総合感冒薬が増加した。また、価格上昇が影響して紙製品が増加したほか、外出需要増加により引き続き化粧品が好調だった。一方、花粉症対策の鼻炎薬、目薬が低調だった。

(2)乗用車新車登録・届出数

(前年同月(期)比%)

		2021年	2022年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年	2024年		
					4-6月	7-9月	10-12月	11月	12月	1月	2月
乗用車新車登録・届出数	中国	▲ 4.4	▲ 5.9	15.5	24.2	13.5	6.2	7.2	2.4	▲ 18.8	▲ 22.2
	普通乗用車							29.2	15.2	▲ 4.2	▲ 11.6
	小型乗用車							▲ 9.7	▲ 5.2	▲ 28.4	▲ 39.4
	軽乗用車							0.8	▲ 3.7	▲ 26.0	▲ 22.9
	全国	▲ 3.5	▲ 6.2	15.8	23.5	13.9	10.3	11.7	6.1	▲ 10.8	▲ 16.3

(資料 中国運輸局)

(3)消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)

(2020年基準・前年同月(期)比%)

		2021年	2022年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年	2024年		
					4-6月	7-9月	10-12月	11月	12月	1月	2月
消費者物価指数	中国	▲ 0.2	2.4	3.1	3.4	2.9	2.2	2.2	1.8	1.7	2.4
	全国	▲ 0.2	2.3	3.1	3.3	3.0	2.5	2.5	2.3	2.0	2.8

(資料 総務省)

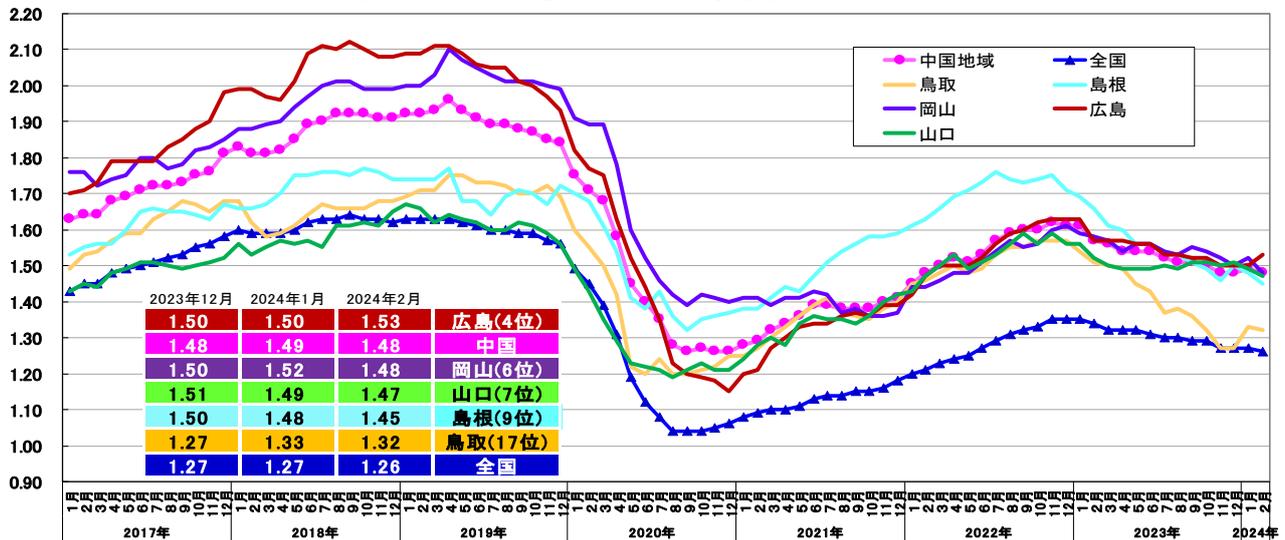
3. 雇用 ～有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前月比で減少～

2月の有効求人倍率は、1.48倍で前月の値を0.01ポイント下回った。また、新規求人数(季節調整値)は、前月比▲0.5%で2か月連続の減少となった。

(季節調整値)※1		2021年	2022年	2023年	2023年	2023年	2023年	2023年	2024年	2024年	
					4-6月	7-9月	10-12月	11月	12月	1月	2月
有効求人倍率	中国	1.36	1.55	1.53	1.54	1.51	1.49	1.48	1.48	1.49	1.48
	全国	1.13	1.28	1.31	1.32	1.29	1.28	1.27	1.27	1.27	1.26
新規求人倍率	中国	2.38	2.66	2.58	2.61	2.56	2.55	2.53	2.59	2.57	2.47
	全国	2.02	2.26	2.29	2.30	2.28	2.25	2.25	2.25	2.28	2.26
新規求人数	中国	57,541	63,735	62,266	62,379	61,967	61,397	60,799	62,865	60,265	59,969
	上段:人 下段:前月(年・期)比%	2.3	10.8	▲ 2.3	0.1	▲ 0.7	▲ 0.9	0.4	3.4	▲ 4.1	▲ 0.5
完全失業率※2	中国	781,572	866,369	866,937	864,225	858,571	852,638	847,400	860,179	850,068	863,715
	全国	4.1	10.8	0.1	▲ 1.7	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.3	1.5	▲ 1.2	1.6
完全失業率※2	中国	2.4	2.2	2.1	2.5	1.9	2.1	—	—	—	—
	全国	2.8	2.6	2.6	2.7	2.6	2.4	2.5	2.5	2.4	2.6

(資料:厚生労働省、総務省)

有効求人倍率の推移 (2024年2月現在)

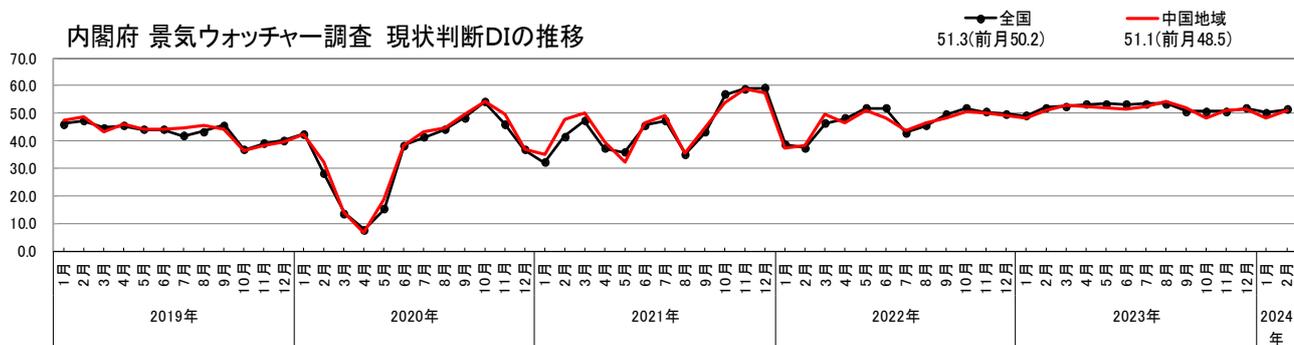


(資料:厚生労働省)

4. 景況感 ～現状は前月に比べ上昇、先行きは低下～

内閣府の景気ウォッチャー調査(令和6年2月調査結果)によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の状態に対する判断DI(方向性)は51.1となり、前月差2.6ポイントの上昇となった。

2～3か月先の景気の先行きに対する判断DIは51.0となり、同3.2ポイントの低下となった。



(資料:内閣府)

※1 年は原数値。年、四半期は平均。中国地域の年、四半期の平均は当局にて算出。

※2 年、四半期は原数値。

5. 貿易 ～輸出、輸入ともに前年同月比で増加～

2月の輸出は、前年同月比5.2%と2か月ぶりに前年を上回った。品目別では、半導体等製造装置、半導体等電子部品などが前年を上回った。地域別では、アフリカ、中南米向けなどが前年を上回った。

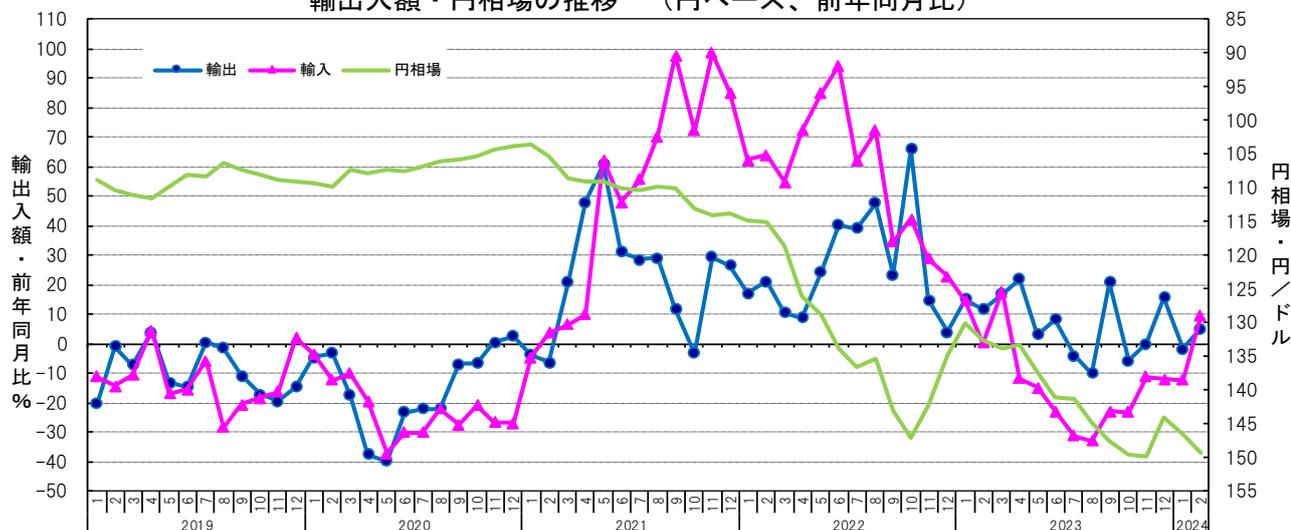
2月の輸入は、前年同月比9.4%と11か月ぶりに前年を上回った。品目別では、原油及び粗油、金属鉱及びびくなどが前年を上回った。

(通関ベース、円ベース、前年同月(期)比%)^{※4}

		2021年	2022年	2023年	2023年			2023年		2024年	
					4-6月	7-9月	10-12月	11月	12月	1月	2月
輸出	総合										
	中国地域	20.3	25.3	6.9	10.7	1.3	2.8	0.0	15.6	▲1.7	5.2
	全国	21.5	18.2	2.8	1.6	1.1	3.7	▲0.2	9.7	11.9	7.8
	自動車(中国地域) ^{※3}	12.7	18.9	34.2	/	/	/	27.2	48.2	▲2.5	▲3.1
鉄鋼(中国地域) ^{※3}	49.7	36.3	▲12.9	/	/	/	▲15.5	▲9.8	▲7.4	3.4	
輸入	総合										
	中国地域 ^{※3}	46.7	55.1	▲14.1	▲16.8	▲29.4	▲15.6	▲11.1	▲12.1	▲12.4	9.4
	全国 ^{※3}	24.8	39.6	▲7.0	▲8.8	▲16.1	▲10.4	▲11.8	▲6.8	▲9.7	0.5
	原粗油(中国地域) ^{※3}	83.2	79.0	▲23.4	/	/	/	12.0	▲8.2	▲13.3	45.9
石炭(中国地域) ^{※3}	71.7	182.5	▲21.8	/	/	/	▲43.6	▲41.4	▲36.7	▲32.2	
為替 ^{※5}	円/ドル	109.80	131.38	140.48	137.30	144.55	147.81	149.83	144.07	146.57	149.42

(資料：財務省、日本銀行)

輸出入額・円相場の推移 (円ベース、前年同月比)



※3 月次は速報値。

※4 数値は確報、確々報、確定報により修正されることがある。

※5 為替は東京インターバンク相場(スポット 月中平均 中心、日本銀行公表)

6. 建設動向 ～公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少～

2月の中国地域の公共工事請負金額は、市町村、その他公共的団体で前年を上回ったものの、国、独立行政法人等、県で前年を下回った。合計では前年同月比▲2.6%と前年を下回った。

2月の新設住宅着工戸数は、給与住宅で前年を上回ったものの、持家、貸家、分譲住宅で前年を下回った。合計では前年同月比▲24.1%と5か月連続で前年を下回った。

(前年同月(期)比%)

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年			2023年		2024年	
					4-6月	7-9月	10-12月	11月	12月	1月	2月
公共工事請負金額	中国	▲ 4.5	▲ 4.8	▲ 0.3	3.9	12.4	17.5	5.1	26.6	30.7	▲ 2.6
	全国	2.3	▲ 8.6	▲ 0.4	7.1	1.3	8.3	9.9	14.5	12.7	▲ 0.7
新設住宅着工戸数 ^{※6}	中国	▲ 8.9	9.4	▲ 0.3	▲ 7.6	▲ 13.9	▲ 12.9	▲ 26.1	▲ 4.7	▲ 5.9	▲ 24.1
	全国	▲ 8.1	6.6	▲ 0.6	▲ 4.7	▲ 7.7	▲ 6.3	▲ 8.5	▲ 4.0	▲ 7.5	▲ 8.2

(資料:「公共工事請負金額(中国地域)」(西日本建設業保証(株)広島支店)、

「同(全国)」(北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株))

「新設住宅着工戸数」(国土交通省))

7. 企業倒産 ～件数、負債総額とも前年同月比で増加～

2月の企業倒産件数は35件で、前年同月比66.7%と10か月連続で前年を上回った。また、負債総額は33億7,100万円で、前年同月比42.8%と8か月連続で前年を上回った。

業種別にみると、製造業が8件、小売業、サービス業他が6件、建設業が5件、卸売業、運輸業が4件などとなった。

原因別にみると、販売不振が27件、既往のシワ寄せが4件などとなった。

(前年同月(期)比%)

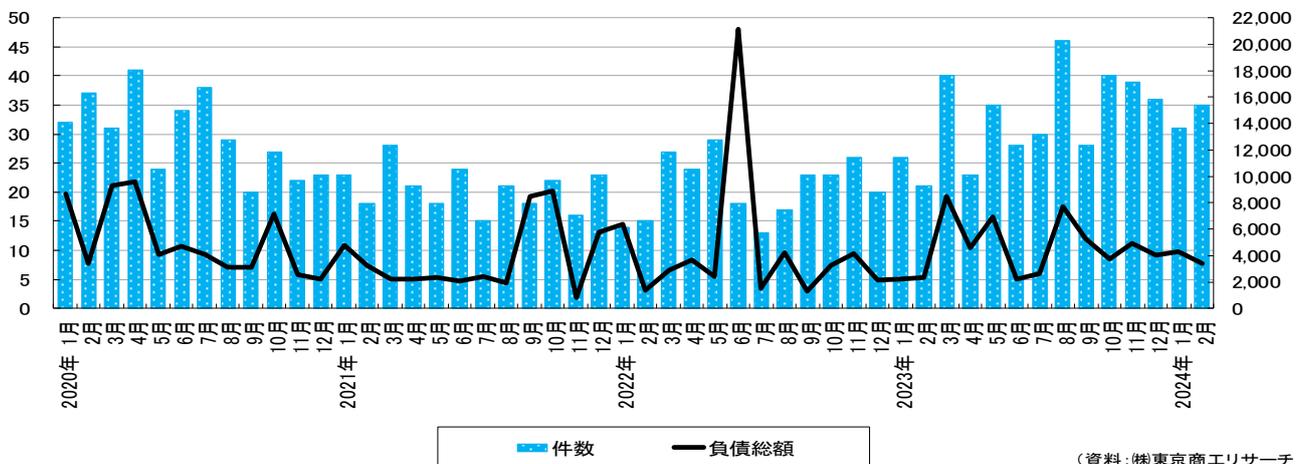
		2021年	2022年	2023年	2023年			2023年		2024年	
					4-6月	7-9月	10-12月	11月	12月	1月	2月
企業倒産件数	中国	▲ 31.0	0.8	57.4	21.1	96.2	66.7	50.0	80.0	19.2	66.7
	全国	▲ 22.4	6.6	35.2	34.1	41.2	35.2	38.9	33.7	23.0	23.4
負債総額	中国	▲ 27.3	20.6	1.2	▲ 49.5	120.6	33.4	18.7	91.1	95.9	42.8
	全国	▲ 5.7	102.6	3.1	▲ 54.8	182.4	79.6	▲ 17.9	30.4	40.0	44.5

(資料:(株)東京商工リサーチ)

倒産件数
(件)

中国地域倒産件数・負債総額推移

負債総額
(百万円)



(資料:(株)東京商工リサーチ)

※6 数値は公表元の修正にあわせて修正されることがある。

8. 設備投資 ～2023年度実績は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2024年3月)によると、2023年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比7.7%、非製造業が同14.8%となり、全産業では同11.0%となっている。

◆企業短期経済観測調査結果(2024年3月調査)

設備投資額(含む土地投資額)

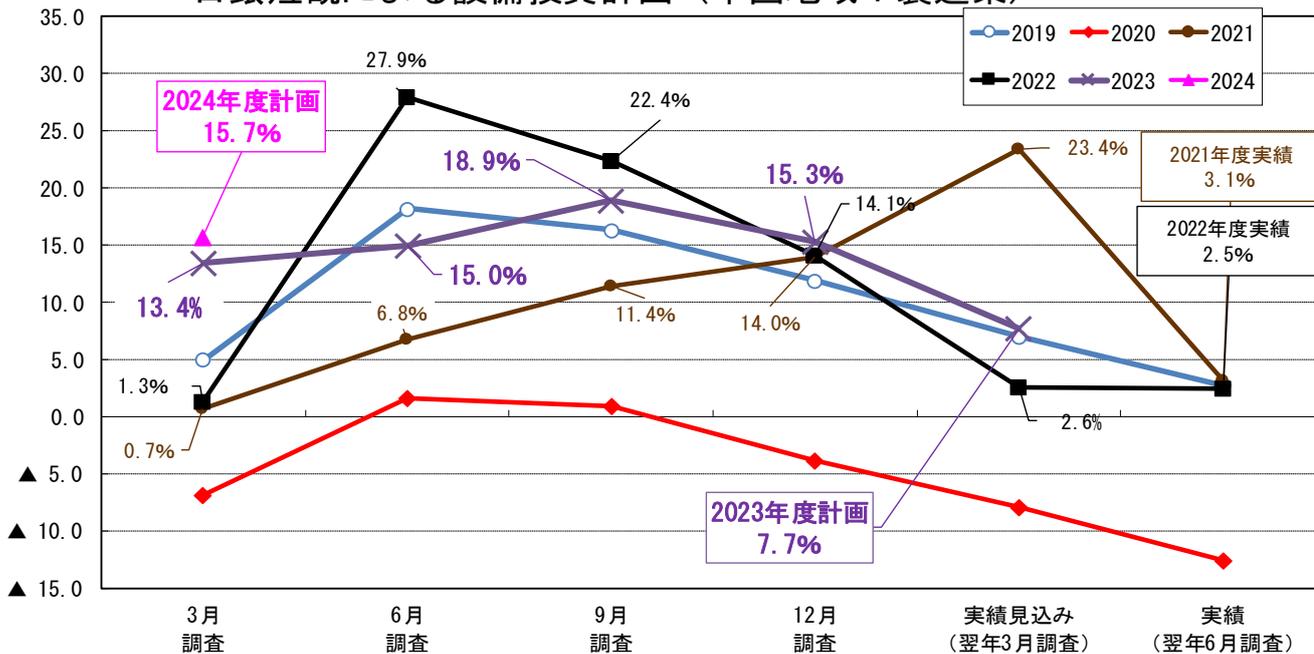
(前年度比・%)

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績見込み	2024年度 計画
中国	全産業	▲ 1.5	9.3	11.0	7.0
	製造業	3.1	2.5	7.7	15.7
	非製造業	▲ 7.1	18.3	14.8	▲ 2.2
全国	全産業	▲ 0.8	9.2	10.7	3.3
	製造業	1.1	9.0	9.4	8.2
	非製造業	▲ 1.9	9.3	11.6	0.5

(資料: 日本銀行、同広島支店)

(前年度比・%)

日銀短観による設備投資計画(中国地域: 製造業)



(注) 横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したものの。